

スマートメーターの仕様改革について

		旧仕様	新仕様
基本的な考え方		政府の検討会で定義された最低限の機能(独自仕様)	外部接続性、技術的拡張可能性、コスト削減の3原則
システム	システム構成	独自開発	国際標準準拠(CIMを採用)
	データフォーマット	独自仕様	国際規格を採用(IECを採用)
通信	広域	自営光ファイバーが主体	他社インフラの活用も含め適材適所で組み合わせ
	Aルート	無線メッシュ方式が主体	3方式(無線メッシュ、携帯、PLC)を適材適所で組み合わせ
	Bルート(設置方法)	消費者の要望に応じ取替設置	当初から設置分全てに具備
	通信接続率	当初は求めず、全数設置時まで99%	運用開始当初から95%以上を確保
	ハンディ検針	通信接続まで長期にわたり相当規模で実施	通信接続状況に応じて、極めて限定的に実施
メーター	構造	分離型のみ	一体型も排除せず
	入札方式	国内メーカー4社に指名競争入札	国際競争入札(今秋より入札開始)
その他	新サービス	検討は次段階	新サービス向け機能を織り込み
	導入スケジュール	検定有効期間満了に伴う取替に合わせ10年間かけて設置	可能な限り前倒しで設置(今後検討)